



学校だより2月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和5年1月31日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

学校教育目標の具現化を目指して

～異学年の交流を通して、思いやりの心を育む～

校長 岡崎 陽子

1月下旬の大寒波の到来に“凍てつく”という言葉が久しぶりに体感する朝がありました。登校してきた1年生の子どもたちが、氷の張った池の周りではしゃいでいる声を聞きながら、寒い寒いとぼやくばかりだった自分が少し恥ずかしくなりました。厳しい寒さの中でも元気いっぱい自然とたわむれる子どもたちの姿を目にして、一日の活力をもらった思いがしました。

休み時間の子どもたちの姿にも、自然と笑みがこぼれる光景をたくさん目にします。先日も1年生と6年生が追いかけて遊んでいる姿がありました。追いかけているのは決まって1年生。6年生は決まって追いかけています。そして全力で逃げている6年生が疲れたころ、数人の1年生に捕まってしまう。ただそれだけの遊びなのですが、1年生にとっては、6年生を追いかけること、そして捕まえることがとても嬉しいのでしょう。6年生の1年生に合わせた関わり方にも感心します。

このような子どもたちの姿は本校が目指す学校教育目標を具現化しています。本校の学校教育目標は「力を合わせ 笑顔が光る日限の子～互いを思いやり 認め合い 進んで活動できるようにします～」です。特に「互いを思いやり 認め合い」については、「相手の立場や気持ちを思いやって行動できる『優しさ』を育みます」ということを中期学校経営方針に掲げています。そこで、本校では具体的な取組として、ペア学年での活動や全校でのたてわり活動を大切にしてきました。これまでにペア学年での活動では、近隣の公園への遠足、歌や合奏の発表会等をしてきました。全校でのたてわり活動では、長縄跳び、校内オリエンテーリング、集会委員会主催の朝の集会等を行ってきました。年間を通したこれらの取組が、子どもたち同士の関係を広げたり深めたりしてきていると感じています。

昔の話をして恐縮ですが、私が小学校の低学年の頃は、学校から帰ると近所の異学年の子どもたちが集まって、缶けりやドッジボールをして遊ぶことが常でした。三人きょうだい一番上である私は、少し年上のお姉さん、お兄さんが、優しくて格好よく見え、憧れでした。また、妹や弟と同じような年齢の子どもたちも仲間に入れて遊んでいたのも、どうすればみんな仲良く楽しく遊べるかを自然と身に付けることができていたように思います。

学校で行っているペア学年・全校たてわり活動は、意図的に異年齢の子どもたちが関わる場面をつくらせて行っている活動です。上学年の子どもが下学年の子どもを思いやって話しかけたり手助けしたり、下学年の子どもが上学年の子どもを見習ったり憧れたりする関係を通して、「相手の立場や気持ちを思いやって行動できる『優しさ』を育み」たいと願っています。

1年間の教育活動の振り返りをするこの時期、子どもたちが見せてくれる様々な姿が、私たち教職員にとって手ごたえを感じるものであるときは、次年度に引き継いで更に質を高めていきたいと考えます。反対に課題や改善の余地を感じるものがあれば、それを明らかにして次年度に生かしていきたいと思えます。よりよい学校づくりに向けて努力してまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。